Panasonic

施工説明書

システム手すり
連続手すり

■ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で事故及び部材の損傷等、問題が生じた場合は、保証しかねますのでご注意ください。
■ 取扱説明書は必ずお施主様にお渡しください。

もくじ

安全上のご注意	2
手すりの設置位置について	3
施工前の確認	3
部材・部品表（タモ集成材・ムク集成材共通）	4
部材一覧	4
手すりセット品部材一覧	4
施工手順	5
階段姿図例（90°3段まわり14段）	5
墨出し	5
ブラケットの仮固定	5
接続金具の取付	5
勾配部（A・C・D）、入隅・出隅部（B）の固定（フレキシブルジョイントを使用する場合）	6
勾配部（A・C・D）、入隅部（水平な場合B）の固定（手すりコーナー材90°型を使用する場合）	6
入隅・出隅部:（水平な場合 B ）の固定（手すりコーナー材L型を使用する場合）	7
ブラケットの本固定および丸棒手すりの固定	7
手すり端部 E の固定	8
着脱手順	10
ギャラリーパーツ腰見切り4型（QPM154□39、29）へのブラケット取付および端部の納め	11
施工後の確認	裏表紙

安全上のご注意　必ずお守りください。

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をした時に生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。

⚠警告

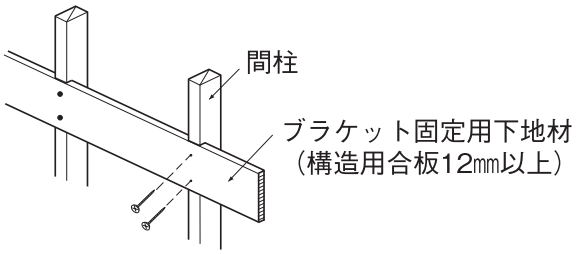
❗必ず守る

●本部材は、住宅の屋内においてのみ使用する　ただし浴室などの湿気の多い場所での使用はさける
くされにより手すり部材が外れる等の問題が生じ、転落事故の原因になります。

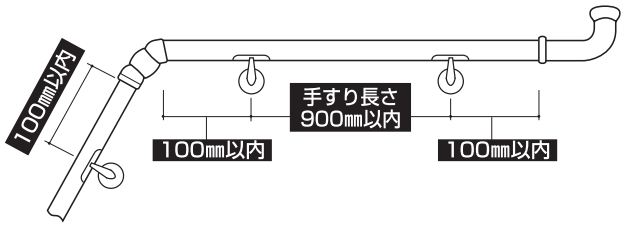
●仮固定作業中は施工場所周囲に安全防護柵を施すなど、手すりが使用できないことがわかるようにする
転落事故の原因になります。

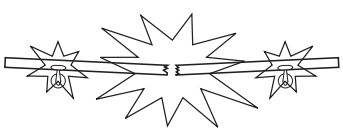
●取り付けは必ず取付工事店が施工する
取り付け不安定による、手すりの外れ、転落・転倒事故の原因になります。

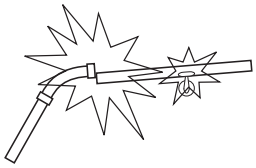
●ブラケットの固定位置には必ず下地材（構造用合板12mm以上）を躯体の所定の位置に取り付ける
ブラケットの外れ、転落・転倒事故の原因になります。



●ブラケットの取付間隔は手すりの距離で900mm以内にする（下図参照）
●接続金具や金具部材とブラケットの取付間隔は100mm以内にする（下図参照）
手すり本体やブラケットが折れたり、接続金具の外れが生じ、転落・転倒事故の原因になります。







必ず守る

●部材の固定は材割れ防止のため必ず下穴をあけ、同梱しているねじを使用し確実に締め込む
ねじの突出によるケガや、保持力不足による手すりの外れ、転落・転倒事故の原因になります。

●各部材を取り付ける際、電動ドライバーのトルクを調整し、ねじを空転させないようにする
ねじの破損や、取付不安定による手すりの外れ、転落・転倒事故の原因になります。

●部材の仮置き保管は、湿気や直射日光の当たる場所を避け、床面が水平な場所に保管する
部材の反り、ネジレの原因になります。

●塗装済み部材をシンナー等で拭かない
色むらの原因になります。

●部材に木工用ボンドが付着した場合、すぐに濡れたタオルで拭き取る
色むらの原因になります。

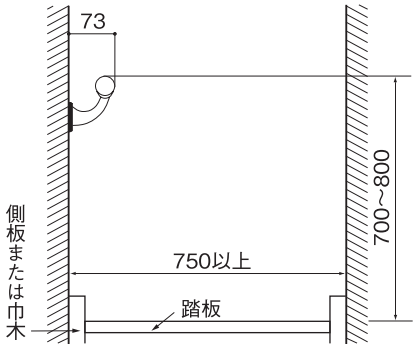
手すりの設置位置について

●図のように手すりの取り付け高さは段鼻、床の位置から700～800mmが一般的です。
（使用される方の使いやすい位置に設置してください。）

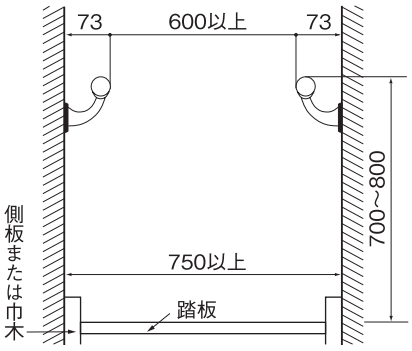
●階段有効幅は建築基準法にもとづき、750mm以上確保してください。
なお、図のように片側へ取り付ける場合、手すりの幅が100mm以内であれば階段有効幅の750mmに算入することができます。
手すりを両側へ取り付ける場合は、手すりの突端間が600mm以上あることが必要です。
（この場合でも階段自体の有効幅は750mm以上必要です。）

■手すりの取り付け位置寸法を厳守してください。

片側に手すりを設置する場合



両側に手すりを設置する場合



施工前の確認

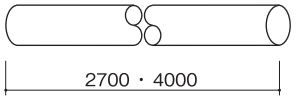
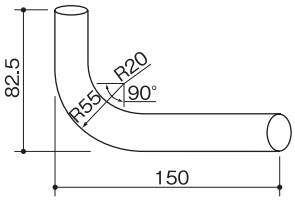
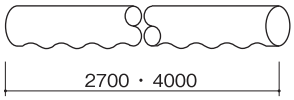
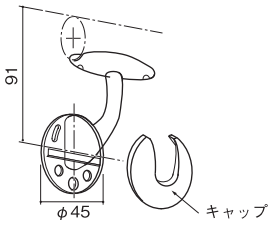
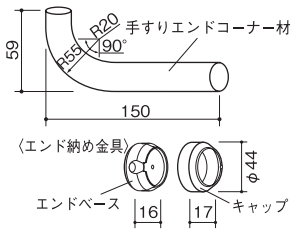
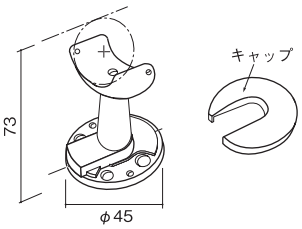
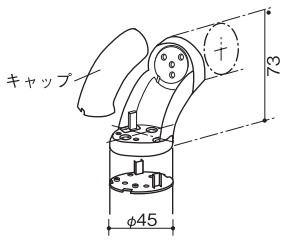
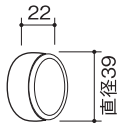
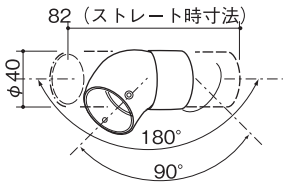
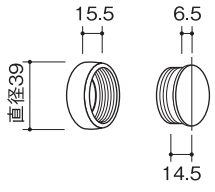
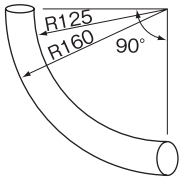
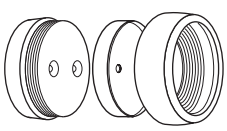
●開梱したら、部材に損傷がないかご確認ください。躯体へ取り付け済み後の損傷クレームについては責任を負えませんので施工前にご確認ください。

●本部材は天然木を使用しており、色柄がひとつひとつ微妙に異なりますので、色調をできるだけ合わせた後、施工してください。

部材・部品表（タモ集成材・ムク集成材共通）

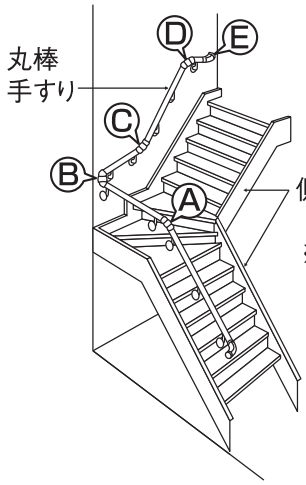
※現場には必要部材（発注部材）のみ納入しています。

部材一覧

商品名・姿図	同梱部品	用途	商品名・姿図	同梱部品	用途
 丸棒手すり	――	直線部	 手すりコーナー材L型	接続金具:2個	入隅部 出隅部
 ディンプル手すり （タモ集成材のみ）	――	直線部	 ブラケット（壁付用）	壁固定用木ねじ: φ4×40mm［3本］ 手すり固定用木ねじ: φ3×20mm［2本］ 台座固定用ねじ: ナベ ⊕M4×8 ［2本］（取付済） キャップ1個	――
 手すりコーナー材エンドL型	接続金具:1個 エンド納め金具:1個 木ねじ: φ3×30mm［4本］	端部納め	 ブラケット（笠木取付用）	壁固定用木ねじ: φ4×40mm［4本］ 手すり固定用木ねじ: φ3×20mm［2本］ 台座固定用ねじ: ナベ ⊕M4×6 ［2本］（取付済） キャップ1個	――
 エンドブラケット	壁固定用木ねじ: φ4×40mm［4本］ 手すり固定用木ねじ: φ3×25mm［4本］ 台座固定用ねじ: ナベ ⊕M4×6 ［2本］（取付済） ※固定型には付いていません キャップ1個	端部納め	 エンドキャップ〔木製〕 （2個入／梱）	――	端部納め
 手すりコーナー材 フレキシブルジョイント	手すり固定用木ねじ: φ3×16mm［2本］ 手すり固定用木ねじ: φ3×25mm［2本］	・勾配 ・踊り場 ・2階廻り ・3階廻り ・廊下の 入隅部 出隅部	 エンドキャップ〔樹脂製〕 （2個入／梱）	手すり固定用木ねじ: φ3×12mm［2本／個］	端部納め
 手すりコーナー材90° 型	接続金具:2個	・勾配 ・踊り場 ・廊下の 入隅部	 接続金具	手すり固定用木ねじ: φ3×25mm［4本］	――

施工手順

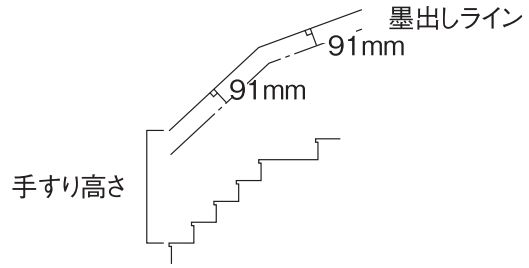
階段姿図例（90°3段まわり14段）



※階段形態により手すりの取り付けパターンが異なりますが、施工方法は共通ですので、左記パターンを参考に施工してください。

1.墨出し

〈直線部～勾配部〉



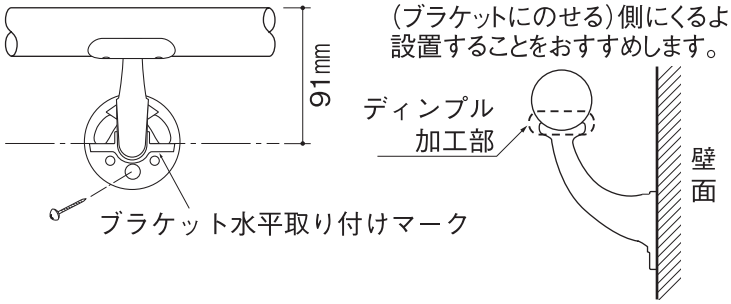
段鼻からの手すり高さを基準に、ブラケットの位置出しマークに合わせたラインを墨出しします。

2.ブラケットの仮固定

ブラケット水平取り付けマークをブラケット取り付け位置に合わせて、水平を出しながら図のように1か所ねじ止めし、ブラケットを仮固定してください。

※ディンプル加工付手すりの場合

図のようにディンプル部が真下（ブラケットにのせる）側にくるよう設置することをおすすめします。



⚠警告

必ず守る

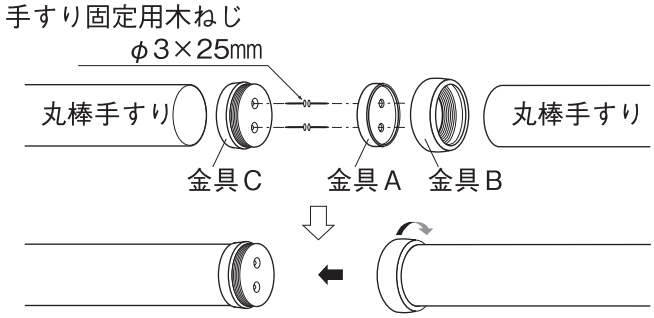
- ブラケットの取付間隔は900mm以内（丸棒手すり距離）に取り付ける。
- 接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける。
- 材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてから各ねじを取り付ける。

3.接続金具の取り付け

手順1 手すりにねじ用の下穴（約φ2.5mm）をあける。

手順2 金具Cに片側の手すりを差込み、同梱の手すり固定用木ねじで固定する。

手順3 もう一方の手すりを、金具A、金具Bを組み合わせた状態のものに差込み同梱の手すり固定用木ねじで固定後、金具Cに金具Bをねじ込み固定する。



⚠警告

必ず守る

- 接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける。
- 材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてから各ねじを取り付ける。

⚠注意

必ず守る

丸棒手すりは、接続金具の奥まで確実に差し込んで固定する。

施工手順

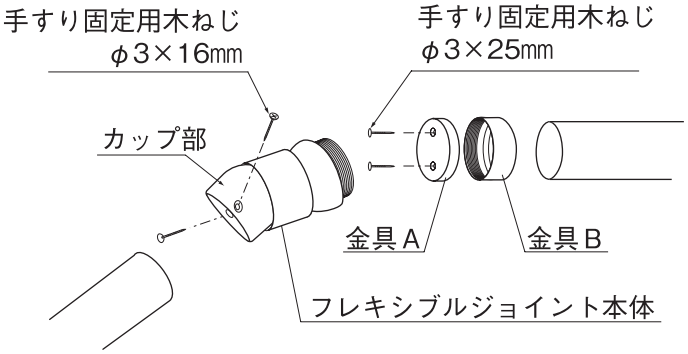
4.勾配部Ⓐ・Ⓒ・Ⓓ、入隅・出隅部Ⓑの固定（フレキシブルジョイントを使用する場合）

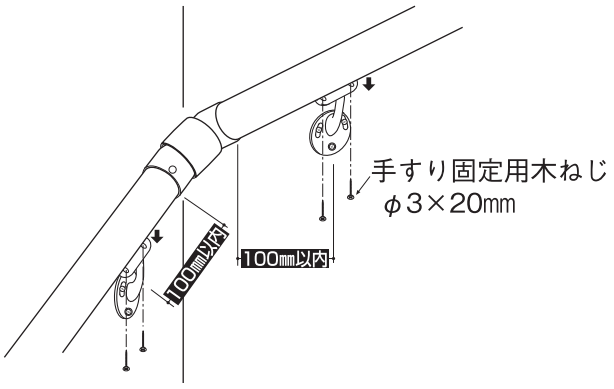
手順1　図のように、フレキシブルジョイントの片側（カップ部）に丸棒手すりを差込み、同梱の手すり固定用木ねじで固定する。

手順2　もう片側の手すりを、金具A、金具Bを組み合わせた状態のものに差込み同梱の手すり固定用木ねじで固定後、フレキシブルジョイント本体に金具Bをねじ込み固定する。

手順3　フレキシブルジョイントの可動方向（カップ部の△の方向に動きます）をさぐりながらブラケットにのせる。

手順4　丸棒手すりがブラケットの受け部に完全に密着する位置で丸棒手すりとブラケットを固定し、ブラケットを本固定する。





⚠警告

必ず守る

・接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける。
・材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてから各ねじを取り付ける。

⚠注意

必ず守る

丸棒手すりは、接続金具の奥まで確実に差し込んで固定してください。

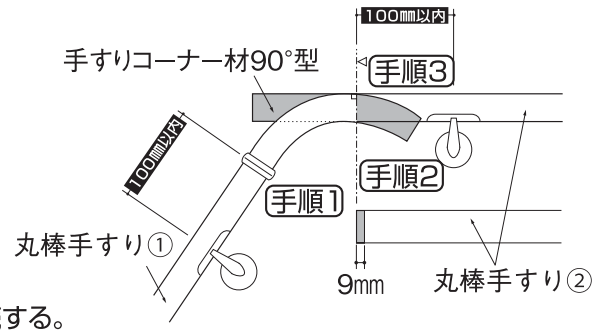
5.勾配部Ⓐ・Ⓒ・Ⓓ、入隅（水平な場合Ⓑ）の固定（手すりコーナー材90°型を使用する場合）

勾配部の取り付け

手順1　手すりコーナー材90°型の片側に接続金具を取り付け、丸棒手すり①に固定する。

手順2　丸棒手すり①と丸棒手すり②をブラケットにのせ、手すりコーナー材90°型を丸棒手すり②との接合線でカットする。また丸棒手すり②は接合線より接続金具の厚み分だけ（9mm）余分にカットする。

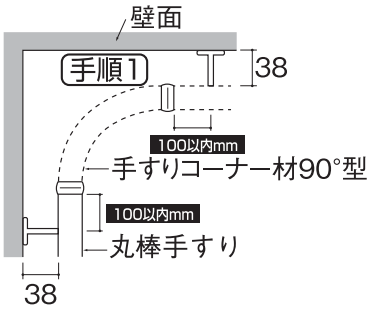
手順3　丸棒手すり②と手すりコーナー材90°型を接続金具で接続する。



入隅部（水平な場合）の取り付け

手順1　接続金具の取付け要領と同様に手すりコーナー材90°型及び、丸棒手すりに接続金具を取り付ける。

手順2　手すりコーナー材90°型と丸棒手すりを固定した後、ブラケットに本固定する。



⚠警告

必ず守る

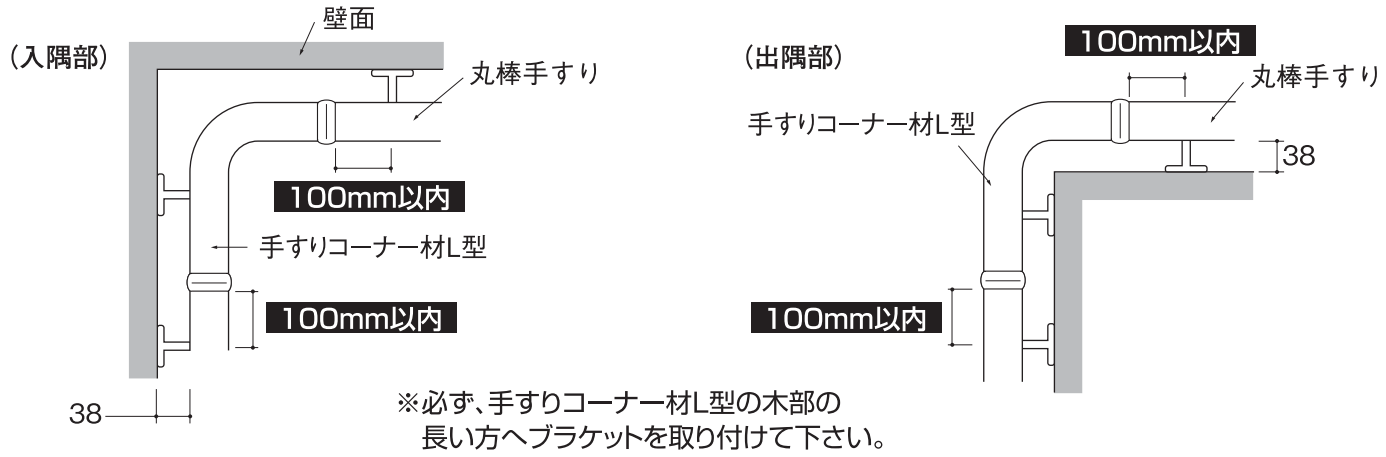
・接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける。
・材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてからねじを取り付ける。

施工手順

6.入隅・出隅部:(水平な場合Ⓑ)の固定(手すりコーナー材L型を使用する場合)

手順1　接続金具の取付け要領と同様に、手すりコーナー材L型および、丸棒手すりに接続金具を取り付ける。

手順2　手すりコーナー材L型と丸棒手すりを固定した後ブラケットに本固定する。



※必ず、手すりコーナー材L型の木部の
長い方へブラケットを取り付けて下さい。

⚠警告

必ず守る

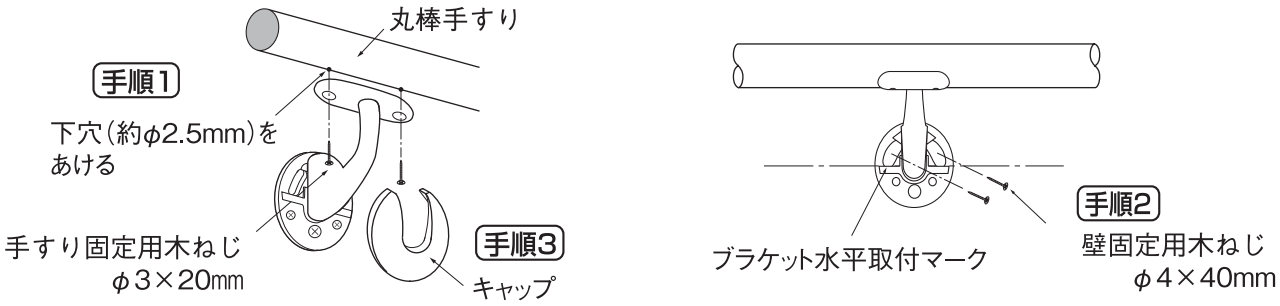
・ブラケットの取付間隔は900mm以内(丸棒手すり距離)に取り付ける。
・接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける。
・材割れ防止のため必ず下穴(約φ2.5)をあけてからねじを取り付ける。

7.ブラケットの本固定および丸棒手すりの固定

手順1　ブラケットの受け座が丸棒手すりに密着するように水平を調整しながら手すりに下穴(約φ2.5mm)をあけて同梱の手すり固定用木ねじで固定する。

手順2　ブラケットを壁固定用木ねじで本固定(残り2か所ねじ止め)する。
(上部2か所のねじは下地にしっかり食い込むようにねじの差し込み位置を調整する。)

手順3　キャップをブラケットのツメに合わせてはめ込む。
(キャップの取り外しはキャップ下部の凹部にドライバー等を引掛けて外すことができます。)



⚠警告

必ず守る

・ブラケットの取付間隔は900mm以内(丸棒手すり距離)に取り付ける。
・接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける。
・材割れ防止のため必ず下穴(約φ2.5)をあけてからねじを取り付ける。

施工手順

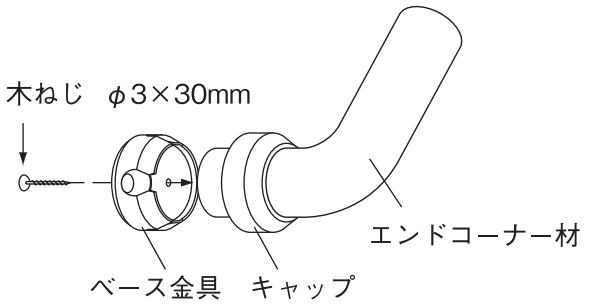
8.手すり端部 Ⓔ の固定：(コーナー材エンドL型の場合)

手順1 下図のように、エンドコーナー材にキャップとベース金具を差し込み、ねじ用の下穴(約φ2.5mm)をあけ、同梱の木ねじでベース金具とエンドコーナー材を固定する。

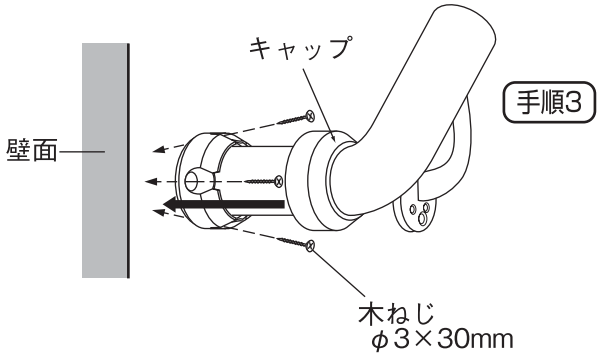
手順2 下図のようにベース金具を同梱の木ねじで壁面に斜めに締め込み固定した後、キャップをかぶせる。

手順3 エンドコーナーにブラケットを取り付ける。

手順1



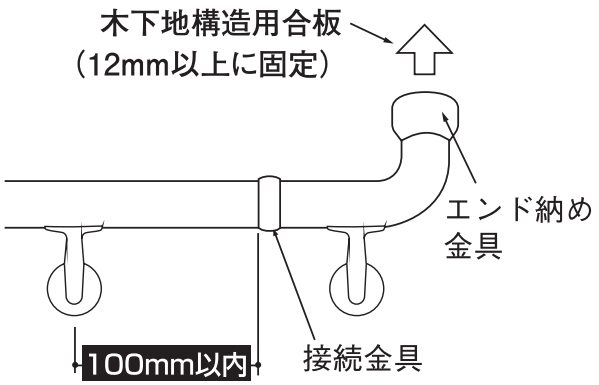
手順2



⚠警告

必ず守る

- **エンドL型を取り付ける場合、必ず図のように接続金具から100mm以内にブラケットを取り付ける**

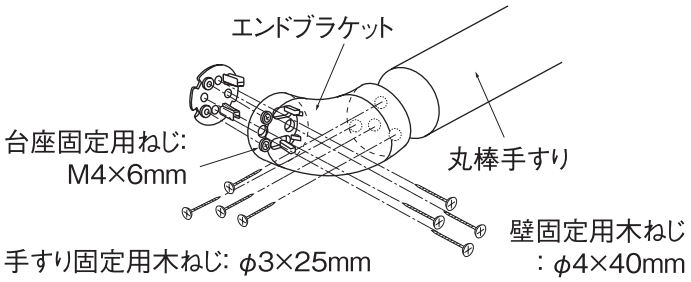


- **エンド納め金具は必ず上記の方法で施工する**
  エンド納め金具は手すりを強度的に保持するものではありません。
- **ベース金具の壁面への固定は必ず下地(構造用合板12mm以上)が入っているところへ固定する**
- **材割れ防止のため必ず下穴(約φ2.5)をあけてから各ねじを取り付ける**

施工手順

9. エンドブラケットの場合

下図のように、丸棒手すりにエンドブラケットを差し込み、同梱の各ねじでエンドブラケットを丸棒及び壁面に固定します。



⚠警告

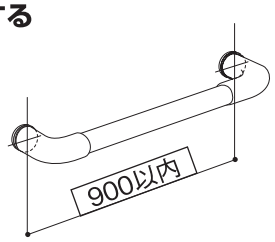
必ず守る

- **エンドブラケットの壁面への固定は必ず下地（構造用合板12mm以上）が入っているところへ固定する**
- **接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける**

⚠警告

必ず守る

- **エンドブラケットを単品で取り付けられる場合、取り付け間隔を900mm以内にする**

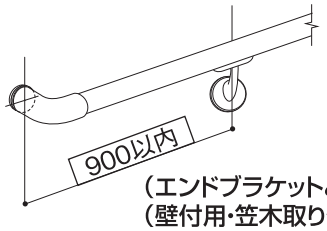


（エンドブラケットどうしの場合）

⚠注意

必ず守る

取付間隔が900mm以上になる場合は、必ず間に図のようにブラケット（壁付用・笠木取り付け用）を取り付ける

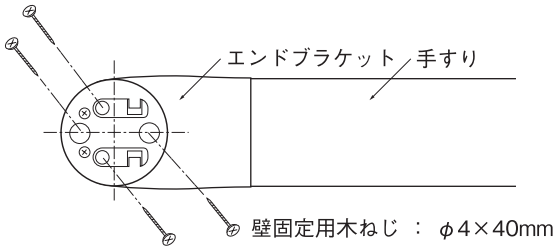


（エンドブラケットとブラケット
（壁付用・笠木取り付け用）の場合）

⚠警告

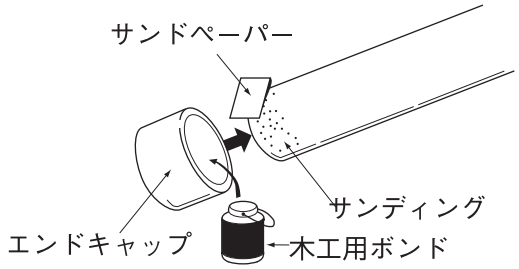
必ず守る

- **横方向に手すりを設置する場合、エンドブラケットの壁への固定は図のように壁固定用木ねじを4個所に打ち込む**



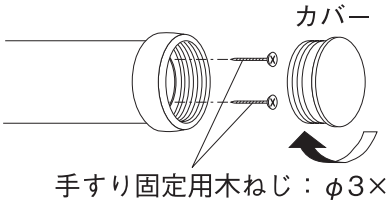
エンドキャップ（木製）の場合

丸棒手すりにエンドキャップを取り付ける際には、端部より5～7mmをペーパーでサンディングし木工用ボンドで固定する。



エンドキャップ（樹脂製）の場合

丸棒木口より同梱の手すり固定用木ねじで4個所固定し、カバーをねじ込みます。



⚠警告

必ず守る

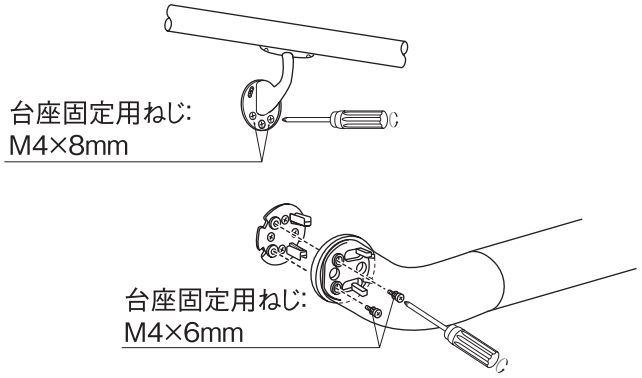
- **材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてから手すり固定用木ねじを取り付ける**

着脱手順

■各部材について取り外しの準備をします

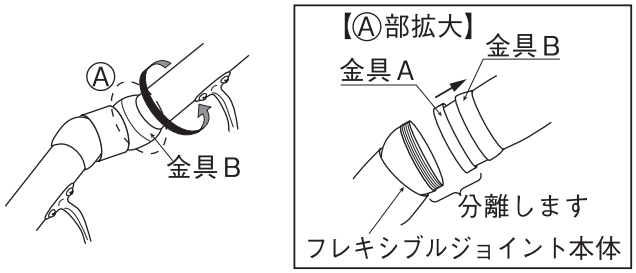
ブラケット及びエンドブラケット部

ブラケット本体とスペーサーを固定しているねじを
プラスドライバー等で外します。



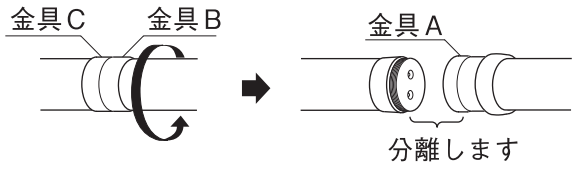
フレキシブルジョイント部

フレキシブルジョイントの金具Bを回転させ、フレキシブル
ジョイント本体と金具A、B部を分離させます。



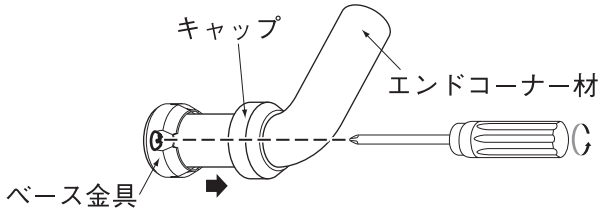
接続金具部

金具Bを回転させ、金具Cと金具A、Bを分離させます。



コーナー材エンドL型部

キャップをずらして壁面に取り付けた木ねじを
3か所外します。



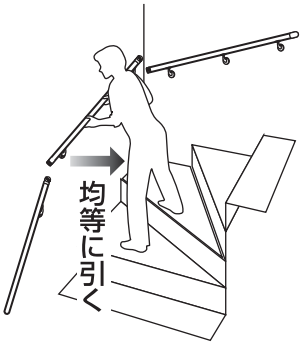
⚠注意

必ず守る

着脱の際、無理に丸棒を引き抜いたり、強くねじらない
ブラケットの破損、ねじの外れが生じます。

取り外し

ブラケット本体部を壁面に対して少しずつ
手前側に均等に動かし、手すりを取り外します。



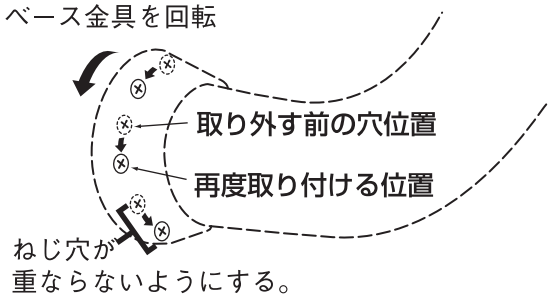
取り付け

クロス貼り、荷物の搬入等が完了したら、取り外しの
場合と逆の手順で再度手すりを取り付けてください。

⚠注意

必ず守る

〈エンドL型部〉を再度壁面へ固定する際は、ベース金具を回転させ、取り外す前の穴位置と重ならないようにし、下穴(約φ2.5)を開けてから木ねじで固定する



⚠警告

必ず守る

- **着脱の際、無理に丸棒を引き抜いたり、強くねじったりしない**
  ブラケットの破損、ねじの外れが生じます
  無理に引き上げると壁などを傷つけて
  しまう恐れがあります

ギャラリーパーツ腰見切り4型へのブラケット取付および端部の納め

⚠注意

必ず守る

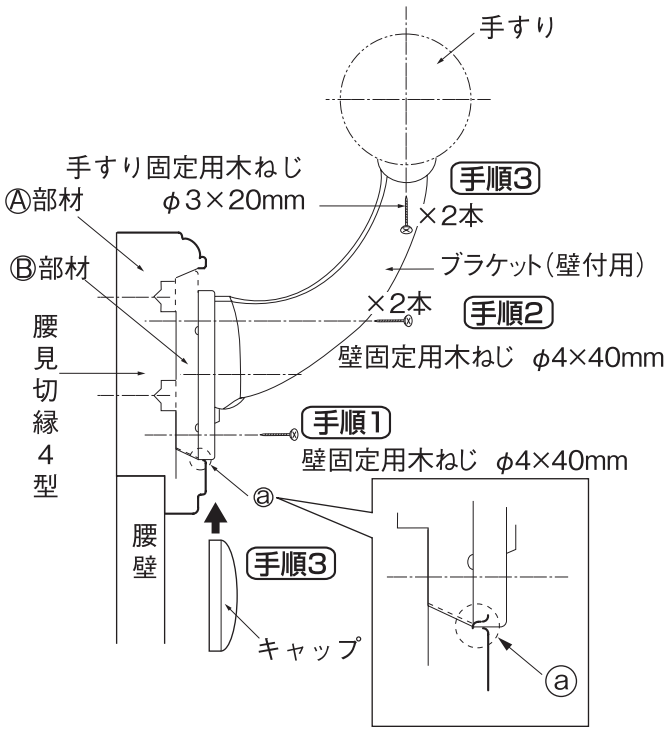
腰見切縁4型の施工方法は、ギャラリーパーツの施工説明書に従う

・連続手すりは当社ギャラリーパーツの腰見切縁4型に取り付けることができます。

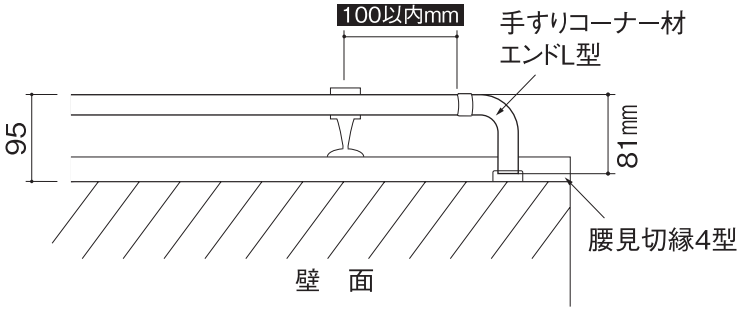
手順1 ブラケットの座の下端をⒶⒷ部材の嵌合段差部（図ⓐ部）に合わせ、ブラケット下端部を壁固定用木ねじ（1個所）で仮固定します。

手順2 手すりを仮置きし、ブラケットの位置を決めた後、上部2個所を壁固定用木ねじで止め、本固定します。

手順3 手すりとブラケットを固定し、ブラケットにキャップを取り付けます。



・端部の納め



端部を手すりコーナー材エンドL型で、納める場合、上図のように**長手方向を81mmにカットし**、壁側へ取り付けてください。

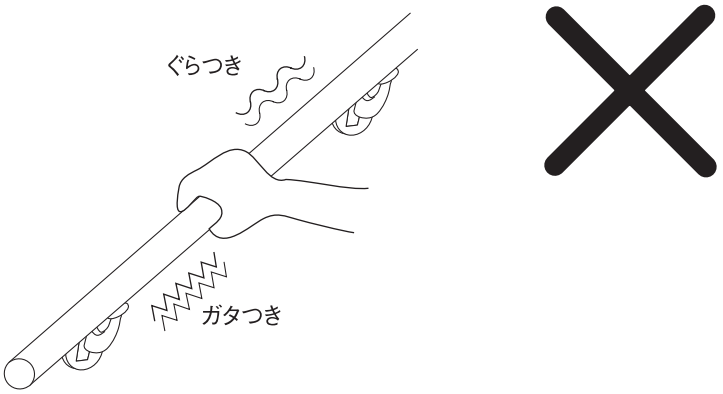
⚠警告

必ず守る

•ブラケットの取付間隔は900mm以内（丸棒手すり距離）に取り付ける
•接続金具など金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける
•材割れ防止のため必ず下穴（約φ2.5）をあけてからねじを取り付ける

施工後の確認

■ 施工が完了したら、手すりにガタツキがないか、金具部のねじが確実に締結されているか、確認してください。緩みがあれば確実に締め直してください。



■ 再度以下の項目について確認してください。

⚠警告

必ず守る

- **ブラケットの取付間隔は900mm 以内（丸棒手すり距離）に取り付ける**
- **接続金具など金具部材が来る場合、金具から100mm 以内にブラケットを取り付ける**

上記が守られていないと、手すりの破損、金具の外れが生じ、転落・転倒事故の危険があります。

■ 取扱説明書は、必ずお施主様へお渡しください。

システム手すり　連続手すり
施ー第20版0810

パナソニック電工株式会社　内装建材事業部
〒571 － 8686 大阪府門真市門真1048

©Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008